

## 令和元年度 Matsusaka-EMS 内部環境監査実施結果

○監査実施期間 令和元年 8 月 30 日（金）、9 月 3 日（火）、5 日（木）、6 日（金）

○監査対象部署 20 部署及び施設  
嬉野地域振興局 地域住民課  
三雲地域振興局 地域住民課（三雲リサイクルセンター）  
教育委員会事務局 学校支援課、学校支援課（子ども支援研究センター）、教育総務課、生涯学習課（第一・第二・第四・幸公民館、青少年センター）  
北部教育事務所（三雲研修センター）  
健康福祉部 介護保険課（松阪市介護認定審査会室）  
地域福祉課（第一隣保館）  
健康福祉部こども局 こども未来課  
建設部 建設保全課（街路灯を除く施設）、建築開発課、西部建設保全事務所（街路灯）、北部建設保全事務所、北部建設保全事務所（中川駅連絡道）  
産業文化部 西部農林水産事務所（飯南和紙和牛センター）  
総務部 財務課（久保田町別館）  
秘書広報課（ケーブルシステム(飯南)）  
防災対策課

○内部環境監査員 5 チーム 15 名

○監査の評価結果 要改善事項：0 部署・施設 優良事項：4 部署・施設  
観察事項：7 部署・施設 その他意見：5 部署・施設

### 「優良事項」

- ・月 1 回所内会議などにおいて、センター職員の方々が情報を共有する機会が設けられており、小さな取り組みを継続されている。継続は、結果に繋がりますので、今後も小さな気づきから取り組んでいただきたい。（子ども支援研究センター）
- ・課で独自におこなっている自転車利用促進について朝礼での呼びかけや研修を実施し、自転車利用を積極的に勧め、実践しており、職員の環境に対しての意識向上に取り組んでいることは高く評価します。（建築開発課）
- ・職場研修について、欠席者にも後日個別研修を行うなど徹底しており、職員の意識向上につながっている。（嬉野地域振興局地域住民課）
- ・職場内でライングループを作り、紙の削減など環境に配慮した取り組みを行うなど、職員の意識向上が窺われる。今後も継続して取り組みを進められたい。（西部建設保全事務所）

### 「観察事項」

- ・今年度の職場研修は実施済みとのことですが、今後は職場研修が実施できないということが無いよう、研修の時期・方法等について検討し、適切に行ってください。(青少年センター、第一・第二・第四・幸公民館)
- ・空調機器の簡易点検については、法令に則って必ず3ヵ月に1回行うようにしてください。また、定期点検が必要な機器があれば、適切に実施するようにしてください。(第一・第二・第四・幸公民館)
- ・Ecollectの入力について、前年度までの電気使用量の入力に誤りがあったため、今年度においては誤りがないように正確な数値の入力に努めてください。(第一・第二・第四・幸公民館)
- ・LPガス使用量および昼間電気使用量について、常駐するシルバー人材センターの職員に対しても、環境方針を説明するなどして、使用量削減への協力を求めてください。(三雲リサイクルセンター)
- ・Matsusaka-EMS シートの文書管理について、マニュアルに基づいて適切な決裁権者の決裁を取り、簿冊の作成と5年間の保存を行うようにしてください。(北部建設保全事務所、中川駅連絡道)
- ・Ecollectの入力について、前年度までのガソリン使用量及び軽油使用量の入力に誤りがあったため、今年度においては誤りがないように正確な数値の入力に努めてください。(北部建設保全事務所、中川駅連絡道)
- ・個人アンケートチェックの評価について、全員の評価の結果が同じであったため、職員それぞれが実感する評価を入力してもらうよう周知に努めてください。(北部建設保全事務所)
- ・適用環境法令等の順守において、一部確認できなかった家電リサイクル及び法定点検の書類を確認し事務局へ報告をすること。今後は書類等の管理について注意されたい。(松阪市介護認定審査会室)
- ・運用マニュアルの更新がなく、決裁規程や手順書作成など環境に関する運用方法に不明な点がある。意識を高め取り組むことに努められたい。(西部農林水産事務所)

### 「その他意見」

- ・地域産材を使用した設備備品を年次計画で積極的に整備し、環境負荷を軽減する事業を推進しており、大いに評価でき今後も継続する事業に取り組みを進めていただきたい。(こども未来課)
- ・多くの公用車管理している中で、環境基本計画の取組目標を達成していることは高く評価できる。今後も低公害車・低燃費車の導入に努めてほしい。(財務課)
- ・公共工事の発注者としての環境に配慮した取組みの内容の研修をおこなっていることは評価できる。(建設保全課)
- ・職場研修の内容として、今問題となっている「海洋プラスチック問題」を取りあげ、各自が意識をもって取組みを進めている。小さいことだが、今後も継続して取り組まれない。(松阪市介護認定審査会室)
- ・職場研修において、業務時間中、私生活にわたって意識を高めようと取り組んでいることは意義がある。(ケーブルシステム(飯南))